



## 「地球温暖化の目撃者」

小西雅子 編著

毎日新聞社, 2011年10月

127頁, 1600円 (本体価格)

ISBN 978-4-620-32088-5

地球温暖化に関する書籍は、国内でも入門書、解説書、懐疑論など非常に多くのものが出版されている。2011年10月に発刊された WWF (世界自然保護基金) ジャパンの「地球温暖化の目撃者」は従来の地球温暖化の書籍とは一線を画すユニークな内容であることが、第一の特徴としてあげられる。地球温暖化の科学を評価する IPCC の分類に従えば、地球温暖化問題は現象解明・予測、影響・適応、緩和対策 (削減対策) におおよそ分類できるが、地球システム自体を扱うことから、大変複雑かつ相互に関連しており、便宜上分類されているに過ぎない。地球温暖化の影響や被害は、だいぶ前から世界中で顕在化しており、1990年に IPCC が最初の報告書 (第一次報告書) で予測した影響が現実のものとなり、日本を含めて世界各地で、環境、社会、経済分野に深刻かつ重大な影響が表れている。具体的にどこで、どんな影響が現れ、生物や生態系、人々の生活や活動、社会経済に影響や被害が与えているのか。地球温暖化の影響や適応を扱った科学的な論文を渉猟しても、具体的な影響の実態はなかなか浮かび上がってこない。新聞やニュースで報道される豪雨、洪水、熱波や干ばつなど、マスコミを通しての映像や写真を見て、影響の甚大さを垣間見ることができるのみで、その結果として生物や自然生態系、さらに人々の生活や活動がどうなったか、までは想像するしかない。

WWF は早くから地球温暖化のもたらす影響の重大さを多方面にわたり考慮し、実践的に活動してきた環境保護団体であり、2004年から地球温暖化の影響を、まさにそこに住んでいる人々の目線や体験からとらえようと、「地球温暖化の目撃者」プロジェクトを開始している。世界中の人々が、地球温暖化は科学者が予測した以上に速く進んでおり、世界の平均的な状況に比べて、地域によってはより気温上昇や降水量の変化が激しいことを実感している。IPCC 報告書や専門家の意見を聞くと、確実に温暖化は進行しており、自然の変動と重なる形で、異常気象なども発生している

るが、個々の異常気象を地球温暖化と関連づけることは不確実性がまだ大きいと、非常に慎重である。本書を読むと、世界各地の人々が日々実感している地球温暖化の影響は、そうした見解とは相当かけ離れたものになっていることが理解できる。

本書は、以下のような3章から構成されている。

### 第1章 地球温暖化の科学

加速している地球温暖化

地球温暖化の影響と適応

地球温暖化を防ぐための政策

### 第2章 世界に広がる地球温暖化の深刻な被害

世界の8地域 (アフリカ、アジア、オセアニア・小島嶼国、ヨーロッパ、中央・南アメリカ、北アメリカ、極域、そして日本) における26の深刻な被害の証言

### 第3章 地球温暖化を防ぐには?

地球温暖化の国際交渉

エネルギーと地球温暖化対策

日本の温暖化政策の歩みとエネルギーの将来

本書の第二の特徴は、地球温暖化の影響、被害の具体的な観察や体験などを通じた事実が中心で大半の頁を当てているが、地球温暖化に関心の低い人々にも地球温暖化がなぜ人類にとって危機なのか、進みつつある地球温暖化はどんな影響や被害を実際もたらしているのか、地球温暖化に係る科学的な知見を平易な言葉で手際よくまとめ、理解できるようになっている点であろう。地球温暖化の影響や被害について、世界の8地域別に26編、とくに科学的にも温暖化の影響である可能性の高い事例が、影響や被害を観察しているレポーターの報告・証言 (1ページ) と影響や被害の写真 (1ページ) の組み合わせで、ビジュアルに伝える工夫がなされており、文章も読みやすい。科学的な背景情報については欄外に数行でまとめられており、論文を引用するような手堅いやり方ではないが、十分その知見が反映されていると思われる。ただ、興味をもった読者が、論文や文献からさらに知識を得たい場合には、少し物足りないかもしれない。

地球温暖化の影響は、IPCC 報告書などに記載されている予測の程度を超えて、科学者も想定していた以上の影響が現れている。最近では、2003年の欧州の熱波 (7万人以上が亡くなったとされる)、2010年のロシアの熱波や2011年のタイの大洪水、日本でも2000 mm を超える豪雨による深層崩壊など、想定外の現象

が発生して、多くの犠牲者がでるとともに、人間活動にも多大な影響を与えている。本書がまとめている世界各地の影響や被害から、地球温暖化は確実に進んでおり、さらに加速していることを実感させるに十分な内容である。では地球温暖化防止に向けて国際交渉が遅々として進まない今日、加速している地球温暖化を

止めることができるのか、原発に依存しない安全なエネルギーと温暖化対策は両立するのか、第3章に答えが示されている。従来とは一味違った地球温暖化の書籍として是非一読をお薦めしたい。

(国立環境研究所 原澤英夫)